
河北潟湖沼研究所通信

Vol.6 No.2

河北潟周辺の水田に今年もハクチョウが飛来



コハクチョウの群れ（津幡町川尻にて、2000年11月）

河北潟の東岸、津幡町川尻から内日角には、毎年多くのコハクチョウが飛来します。今年もまた、群れをつくってやって来ました。翼を休めたり、水田の二番穂をついばんでいるのが観察されます。

ここには、広い水田が広がっているために鳥たちは今のところ、安心して過ごしています。周辺ではだんだんと宅地化が進み、いつまでハクチョウが安心して飛来できる環境を残すことができるのか、予断を許しません。全国各地でハクチョウの里の保全や整備の活動がおこなわれています。広い面積をもつ河北潟周辺でも、だんだんとハクチョウを守るための活動が必要になってきました。

冬の河北潟には、ハクチョウの他にも、カモ類やシギ・チドリ類、猛禽類（ワシやタカの仲間）などのたくさんの野鳥が訪れています。河北潟は野鳥にとっても掛け替えのない場所です。今後、河北潟において、野鳥やその他の野生生物を守るためには、人との共生関係をつくっていくことが大切になっています。

河北潟を訪れた際には、ぜひ周りにいる野鳥やその他の野生生物を気をつけて観察してみてください。きっとたくさんの生物の存在に気がつくことでしょう。ただし、観察に行かれる方は、ハクチョウや他の生物を驚かさないように、遠くから静かに観察してください。

河北潟干拓地で農業と野生生物の共存へ一歩前進

河北潟湖沼研究所通信編集部

最近河北潟では、野生生物に配慮した農業をおこなおうという気運や、野生生物保護のために積極的な施設の造成をおこなうなどの取り組みが少しずつおこなわれるようになってきました。そうした動きの中のいくつかの事例をご紹介します。

干拓地にカモの餌場を提供

河北潟干拓地において、今秋からカモによる麦やレンコンの食害を防ぐための新しい試みが始まることが報じられています（北陸中日新聞2000年10月5日付）。報道されているのは、現在干拓地内で水稲の試験栽培をおこなっている水田において、刈り取り後も水を張り、水鳥のための「おとり池」をつくる試みです。カモが積極的にこの池を利用し、農作物の食害を防ぐ上で効果があがるかどうかは不明ですが、農業と野鳥の共存を進めていくうえでひとつの積極的な取り組みとして評価できるものと考えられます。

干拓地内の牧草地や麦畑におけるカモの食害はかなりのもので、とくに、昨年は麦の品種を変えたことから、それ以前よりも多大な被害がありました。道路に近い部分を残して、ほとんどの麦が食い荒らされてしまった畑もありました。そのため、これまでカモを排除するための対策がいくつかとられていきましたが、干拓地においてはどれもあまり成功していません。今回の取り組みは、むやみにカモを排除するのではなく、農業との棲み分けをしていこうとするもので、新しい傾向であると考えられます。

最近、このおとり池が完成しました。カモたちがこの池を利用してくれることを願いながら、河北潟湖沼研究所もカモたちと農業との共生へ向けてさまざまな取り組みに参加していきたいと思えます。



カモによる農作物の食害対策としてつくられた「おとり池」

ハス田に新型ネット

別の新聞報道によると、これまで河北潟干拓地内のハス田で問題となっていた防鳥ネットが、改良された新型に切り替えられる見通しです（北陸中日新聞2000年10月7日付）。

河北潟干拓地のハス田は、20年ほど前から小坂地区から移ってきたもので、特産の「小坂レンコン」が栽培されています。現在のハス田は、面積約40ヘクタールで干拓地の中央付近で生産されています。

ハス田は、夏に大きなハスの葉が拡がり、秋にレンコンの収穫が終わると泥の湿地と化し、冬季は水が張られている状態で維持されます。農地に広がる湿地のハス田は、冬に到来するカモやシギ、チドリ類など多くの野鳥が餌場として利用します。

湿地に生息する水生昆虫やミミズなどの小動物を餌とするシギ、チドリやケリなどと違って、カモ類は生産しているレンコンそのものを好んで食べるらしく、昼間に川や潟で見られるカモの多くが、夜間に多勢でハス田に訪れます。



新型のハス田防鳥設備、番線を張ったため野鳥が絡まなくなった

レンコンはカモにかじられると売り物にできないため、被害金額が多くなることで問題が深刻化し、8年前からカモによる食害を防止するための防鳥ネットが設置されています。このネットは野鳥が絡まりやすい構造であったことから、カモ類だけでなく多くのシギ・チドリ類や希少猛禽類などが犠牲になっています。今年本格的に採用されることとなった新型ネットは、ステンレス製の番線でできているため、これまでよりは野鳥の羽が絡まりにくい構造となっているのが特徴です。カモによるレンコンの食害やその対策を巡ってはまだまだ多くの課題を残していますが、生産者を含め野鳥を保護する方向での取り組みがでてきたことは評価できることです。

希少水生植物の保全の取り組み

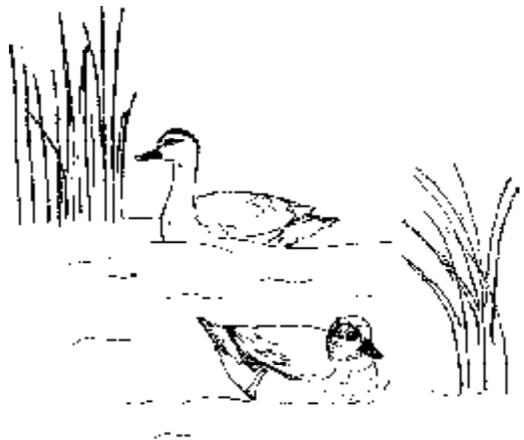
津幡町川尻地区の東部承水路に沿った農業排水路には、レッドデータブックにも取り上げられている、希少植物の「アサザ」が生育しています。周辺の住宅地化に伴い洪水を防止するため、この排水路を改修する必要が出てきました。水路を改修した場合、アサザの消滅が懸念されます。河北潟の東側には、この水路にしかアサザは残っていません。水路自体が人工的な環境であり、現



農業用排水路の整備に伴い、アサザの生息場所が消失することから、代替地として整備される予定のビオトープ（建設中）

在も排水のために利用されている施設であるため、水路改修自体を取りやめることは難しく、アサザの保全のために何らかの代替地が必要となりました。そこで、工事を担当する津幡農林総合事務所が、水路の調整池を兼ねたビオトープを造成することとなりました。春の植栽に向けて現在造成中です。この植栽のために、河北潟湖沼研究所が、自生していたアサザの株を一部採取し現在室内で系統を維持しています。

河北潟湖沼研究所では、パンフレット「河北潟将来構想」を作成し干拓地における農業と野生生物の共存の重要性を訴えてきましたが、自らも共存のための方法や技術に関する調査・研究を開始しています。



最近の活動

県環境フェアとボランティアフェスタ 2000に出展しました

河北潟湖沼研究所は、この夏おこなわれた2つのイベントに出展しました。「いしかわ・かんきょうフェア2000」は8月19 - 20日に石川県産業展示館2号館にて、「ボランティアフェスタ2000」は8月26日に金沢市中央公園でおこなわれました。河北潟湖沼研究所は県内初の環境NPO法人として、河北潟の環境問題とその解決の方向性についての見解を展示しました。



ボランティアフェスタ2000での出展ブース

第14回「河北潟」自然観察会がおこなわれました

第14回自然観察会は10月1日に行われました。当初天候があまり良くありませんでしたが、途中から天候が回復し、晴天の中での野鳥の観察となりました。ハス田のシギ類や遠くに見える猛禽類（ワシ・タカの仲間）が観察できました。河北潟はこれから冬に向かって多くの冬鳥が観察されるようになります。次回の観察会にも多くの方が参加されることを期待しています。

なお、自然観察会は今後不定期開催となります。自然観察会の開催日時のお知らせはホームページ（アドレス <http://kahoku.soc.or.jp>）でおこなっています。ま

た、河北潟湖沼研究所金沢事務局（TEL 076-261-6951）でもご案内いたしますので、お問い合わせ下さい。

「四季の河北潟」カレンダー発行

河北潟湖沼研究所では、2001年のカレンダーを作成しました。12ヶ月の河北潟の風景が、すばらしい写真で掲載されています。

写真撮影にあたっては、昨秋から撮影チームを編成して取り組んできました。今回の撮影では、2名のアマチュアカメラマンの協力をいただきました。その一人、熊倉雅彦さんは、光と影を生かした手法で風景撮影を得意としています。もう一人の野村卓之さんは、広角レンズを巧みに扱い生物を接写します。11月中旬から1冊800円で販売します。



熊倉雅彦氏（左）と野村卓之氏（右）

< 編集後記 >

発行が遅れがちでご迷惑をおかけします。現在、編集を行いたい方を募集しています。

河北潟湖沼研究所通信 VOL.6 NO.2

2000年11月15日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL:076-261-6951 FAX:076-265-3435